

○ 地区の現況

➤ 人口

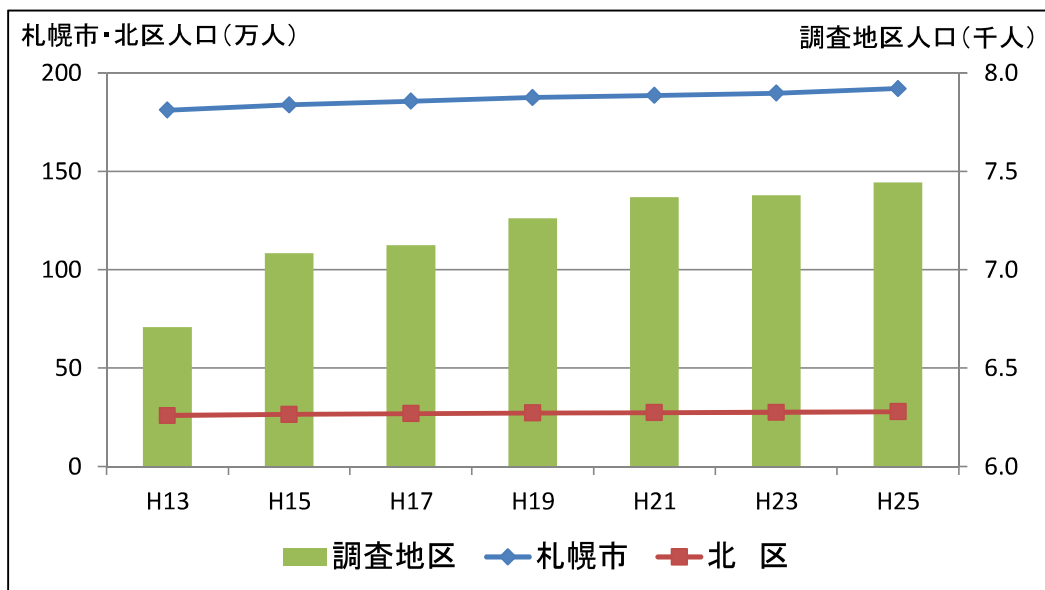
■人口の推移（実数）

	H13	H15	H17	H19	H21	H23	H25
札幌市	1,811,165	1,837,901	1,856,442	1,874,410	1,884,939	1,897,333	1,919,664
北 区	258,949	264,480	269,156	271,742	273,577	275,360	278,932
当地区	6,709	7,084	7,124	7,261	7,368	7,378	7,443

■人口の推移（平成 13 年比）

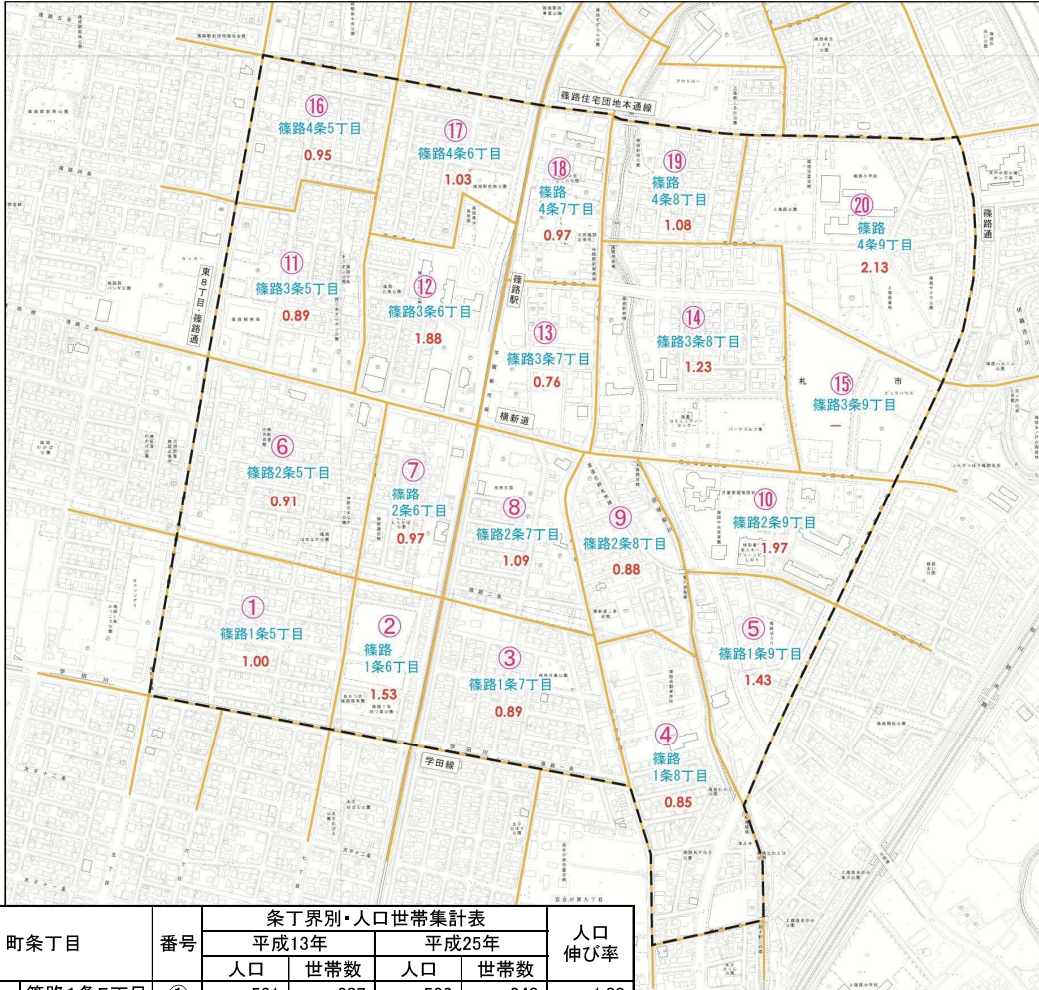
	H13	H15	H17	H19	H21	H23	H25
札幌市	100%	101%	102%	103%	104%	105%	106%
北 区	100%	102%	104%	105%	106%	106%	108%
当地区	100%	106%	106%	108%	110%	110%	111%

- ・ 平成13年から平成25年の推移を見ると、札幌市の人口は増加傾向（平成13年の106%）にあり、北区についても同様な増加傾向（同108%）を示している。
- ・ 一方、当地区については、平成13年から平成17年にかけて、「グリンピアしろ」の整備に伴う人口増（同106%）があり、平成21年には「JR篠路駅西地区市街地再開発事業」による人口増（同110%）を経て、増加傾向が続いている。



■地区内人口の詳細

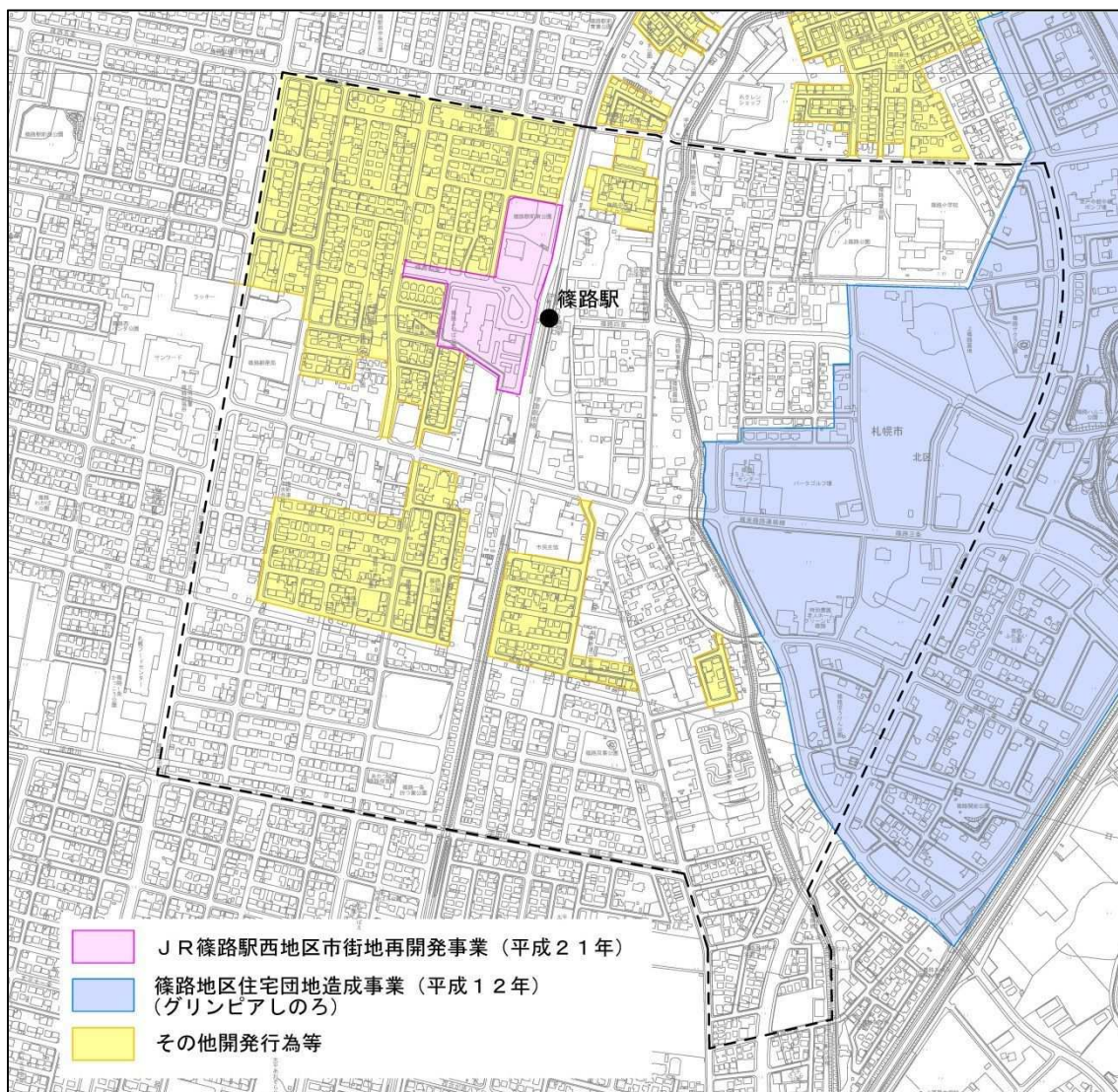
- 下表に示す通り、駅東口に面する篠路3条7丁目（凶番13）は0.76と区域内で1番低く、駅直近で利便性が高いにも関わらず、減少が顕著である。



町条丁目	番号	条丁目別・人口世帯集計表				人口 伸び率
		平成13年		平成25年		
		人口	世帯数	人口	世帯数	
駅西側	篠路1条5丁目 ①	521	207	522	240	1.00
	篠路1条6丁目 ②	125	47	191	79	1.53
	篠路2条5丁目 ⑥	665	270	605	288	0.91
	篠路2条6丁目 ⑦	247	106	239	114	0.97
	篠路3条5丁目 ⑪	420	167	373	178	0.89
	篠路3条6丁目 ⑫	434	160	814	393	1.88
	篠路4条5丁目 ⑯	400	166	379	185	0.95
	篠路4条6丁目 ⑰	308	142	316	155	1.03
小計	3,120	1,265	3,439	1,632	1.10	
駅東側	篠路1条7丁目 ③	647	263	577	288	0.89
	篠路1条8丁目 ④	518	198	442	217	0.85
	篠路1条9丁目 ⑤	143	51	204	81	1.43
	篠路2条7丁目 ⑧	316	138	343	172	1.09
	篠路2条8丁目 ⑨	321	134	281	135	0.88
	篠路2条9丁目 ⑩	265	174	522	343	1.97
	篠路3条7丁目 ⑬	147	64	111	69	0.76
	篠路3条8丁目 ⑭	543	219	669	339	1.23
	篠路3条9丁目 ⑮	0	0	0	0	-
	篠路4条7丁目 ⑱	216	87	210	100	0.97
	篠路4条8丁目 ⑲	345	144	373	189	1.08
	篠路4条9丁目 ⑳	128	42	272	104	2.13
小計	3,589	1,514	4,004	2,037	1.12	
地区内合計		6,709	2,779	7,443	3,669	1.11

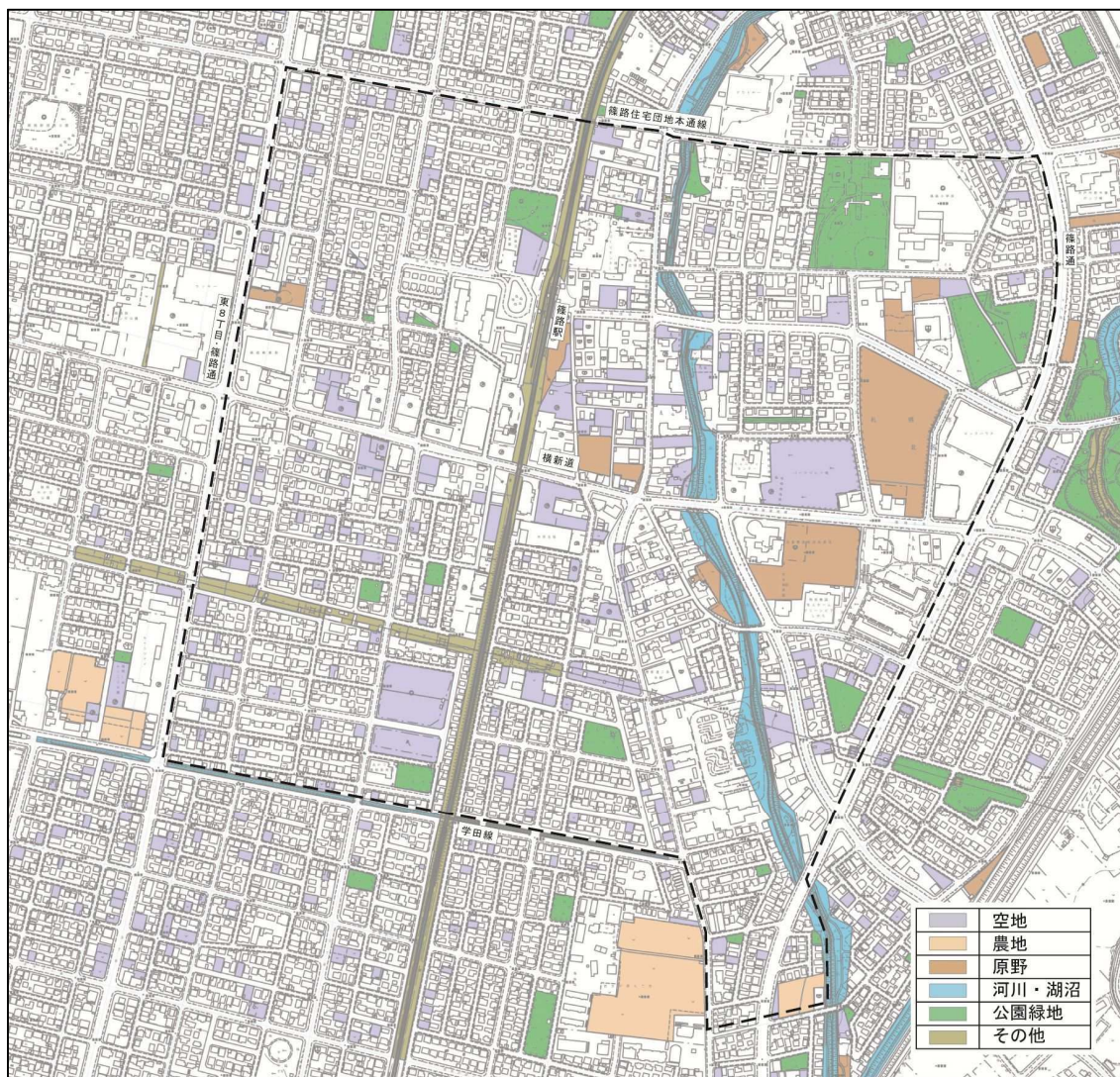
➤ 面的整備状況

- ・ 当地区では、開発行為等のほかに、篠路駅西口側で「JR篠路駅西地区市街地再開発事業（平成21年しゅん功）による整備と、東側で「篠路地区住宅団地造成事業（グリーンピアしのろ）（平成12年しゅん功）による整備が行われている。



➤ 土地利用現況

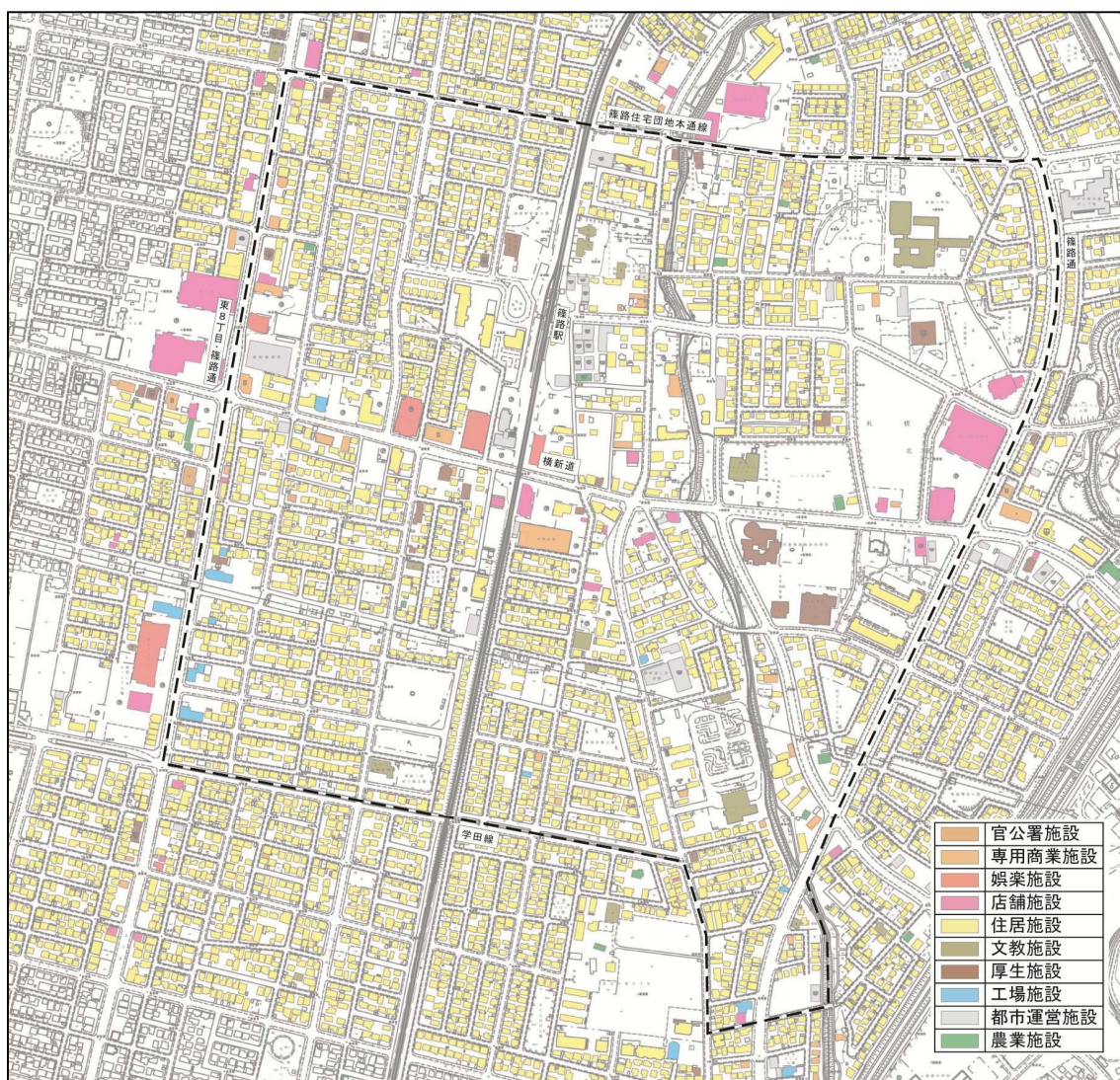
- 当地区には空地、原野が点在し、鉄道東側が多い傾向がある。特に篠路駅東口に近接して大小様々の空地が存在し、土地利用密度が低くなっている。



※無着色は宅地

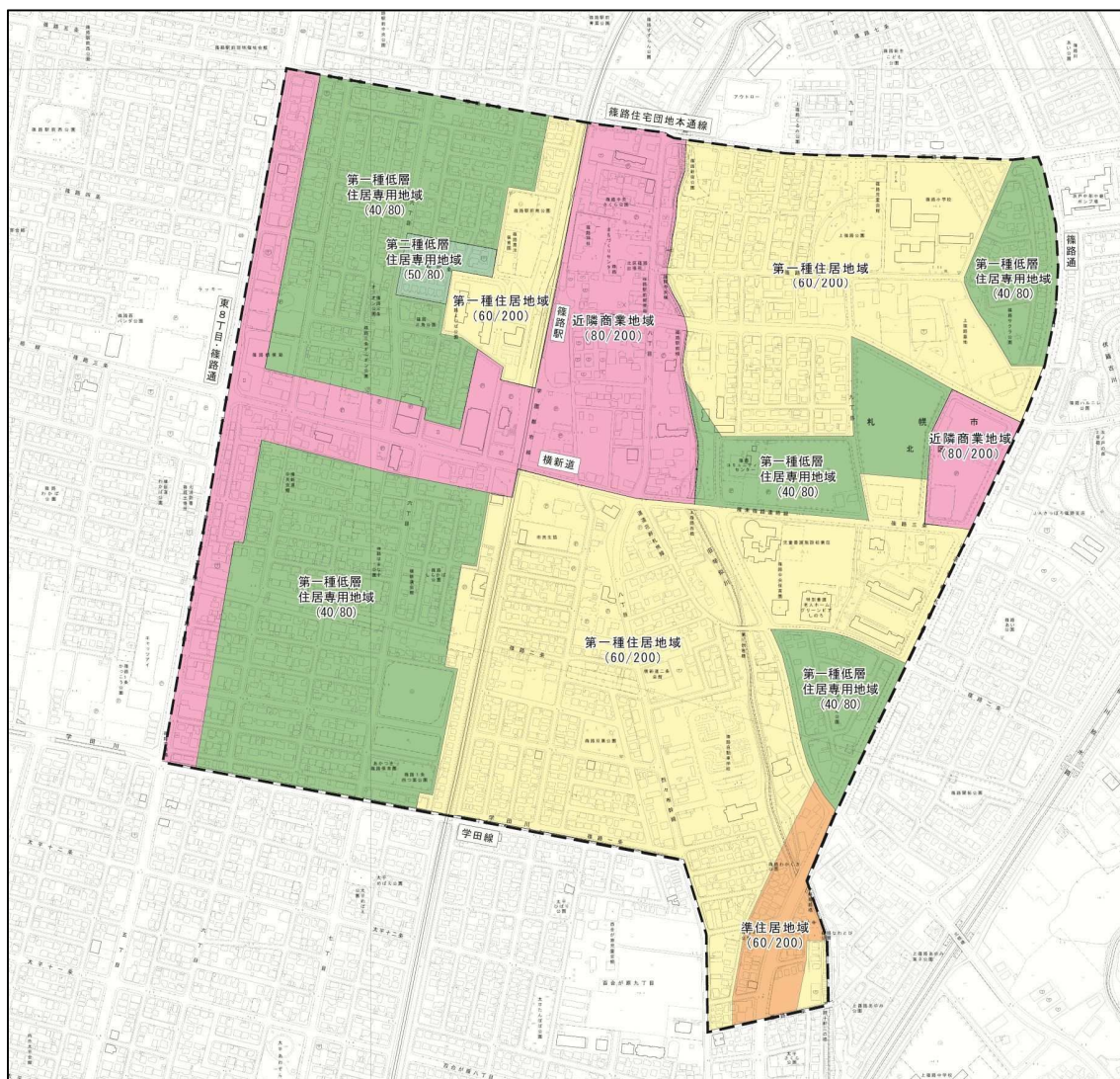
➤ 建物利用現況

- ・ 住居施設が多くを占めるが、横新道、東8丁目篠路通沿いには、商業施設が立地している。
- ・ 篠路駅東口に近接して、農作物の貯蔵等に使用されていた倉庫が集積している。
- ・ 篠路駅東口周辺は、近隣商業地域に指定されているにもかかわらず、低利用となっている。



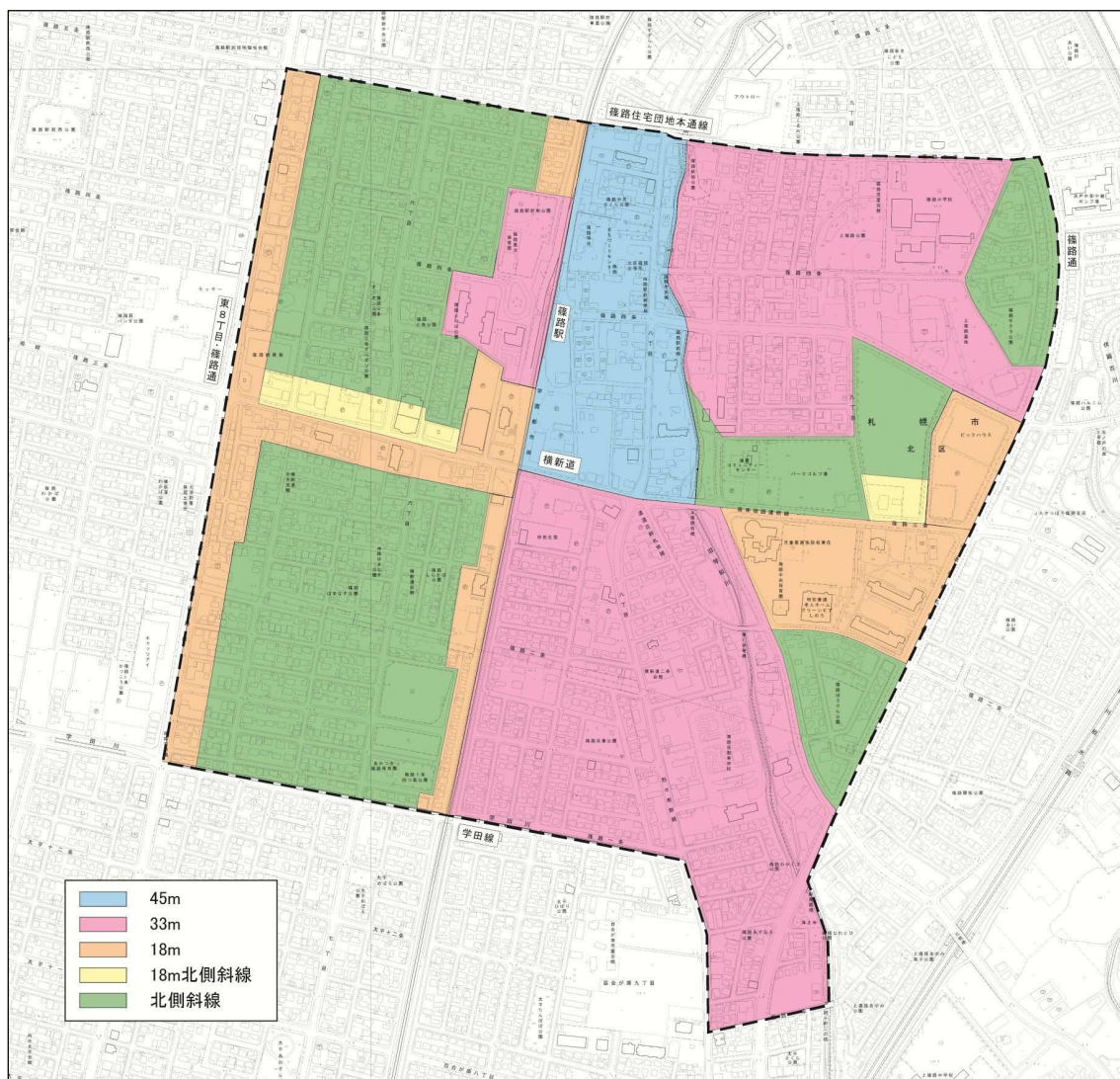
➤ 用途地域の現況

- ・ 当地区は、以下の5種の用途地域及び容積率等が指定されている。
 - 近隣商業地域（準防火地域指定あり）（80/200）
 - 準住居地域（60/200）
 - 第一種住居地域（60/200）
 - 第二種低層住居専用地域（50/80）
 - 第一種低層住居専用地域（40/80）



➤ 高度地区




- ・ 当地区の建物の高さに関する制限は以下のとおりである。





➤ 交通施設の現況(鉄道)

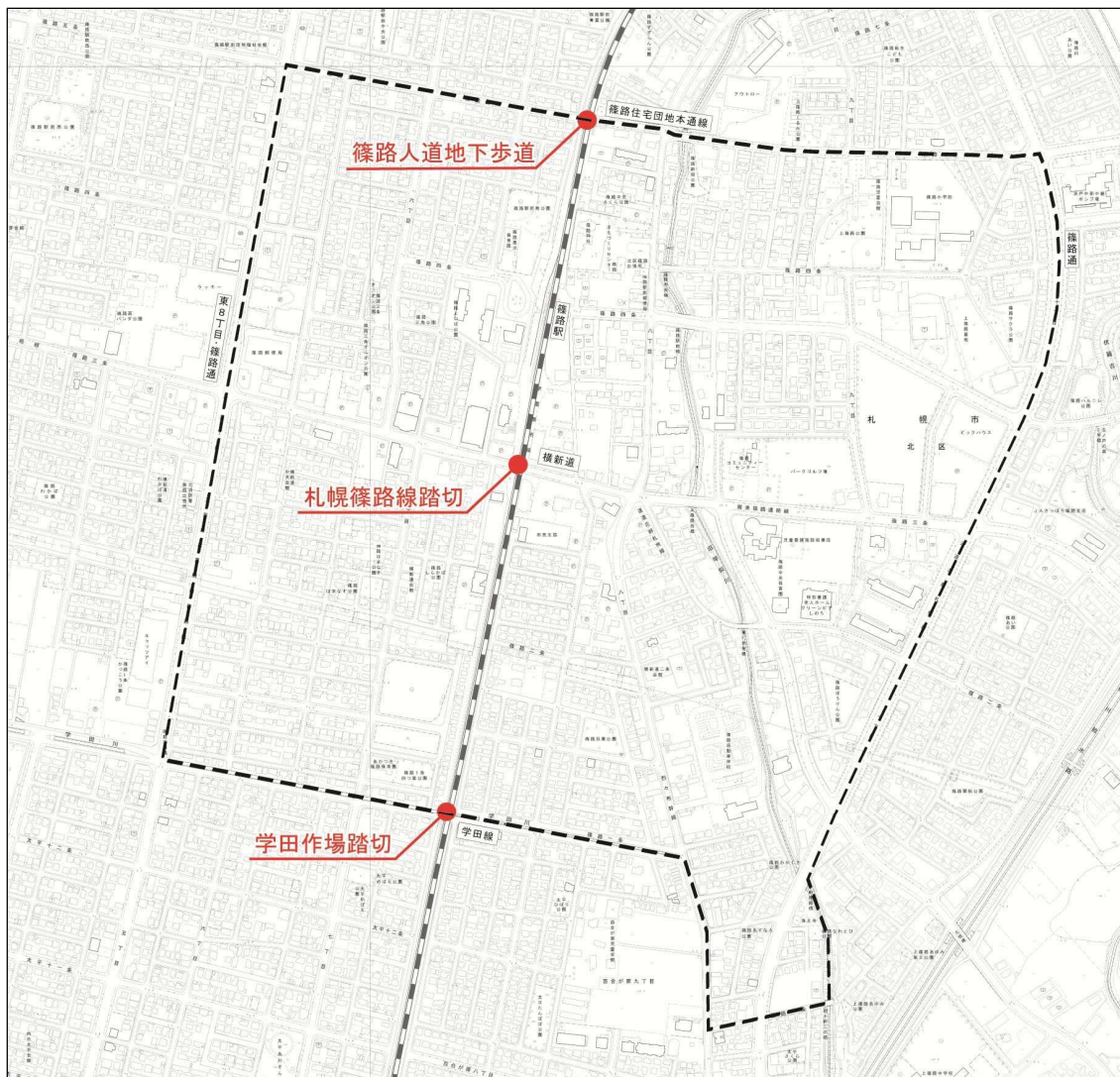
- ・ JR札幌線(学園都市線)は、下図に示すとおり、3次にわたって高架化事業が施行され、札幌駅から新琴似駅まで高架化が完了している。
- ・ 篠路駅を含む八軒駅～あいの里教育大駅間(11.4km)については、複線化が平成11年に完成し、翌年のダイヤ改正によりピーク時10分間隔にて運行している。
- ・ 平成24年には、桑園駅から北海道医療大学間が電化され、新千歳空港への直通列車「快速エアポート」の運転が開始されている。



鉄道高架事業		JR函館本線・JR札幌線連続立体交差事業 (S53～H3、延長約9.2km、踏切除却19カ所)
		JR札幌線新川高架事業(限度額立体交差) (H4～H8、延長約1.9km、踏切除却4カ所)
		JR札幌線連続立体交差事業 (H8～H11、延長約3.7km、踏切除却10カ所)

単独立体交差		道路オーバースタック (市内で18箇所)
		道路アンダーパス (市内で7箇所)
		※国道を除く

- ・ 横新道と鉄道が交差する札幌篠路線踏切については、都市計画道路として市内で唯一残っている踏切である。



■篠路駅乗降人員

H19	H20	H21	H22	H23	H24
4,592	4,694	4,852	4,912	5,168	5,386

- ・ JR篠路駅の乗降人員は、平成24年で5,386人/日で、前年度からの伸び率は1.04であり、これは市内で3番目に高い伸び率である。

➤ 交通施設の現況(路線バス)

- ・ 当地区には、11経路のバスルートがあり、鉄道の東西それぞれに路線が設定されているが、駅乗り入れや東西を結ぶバスルートはない。



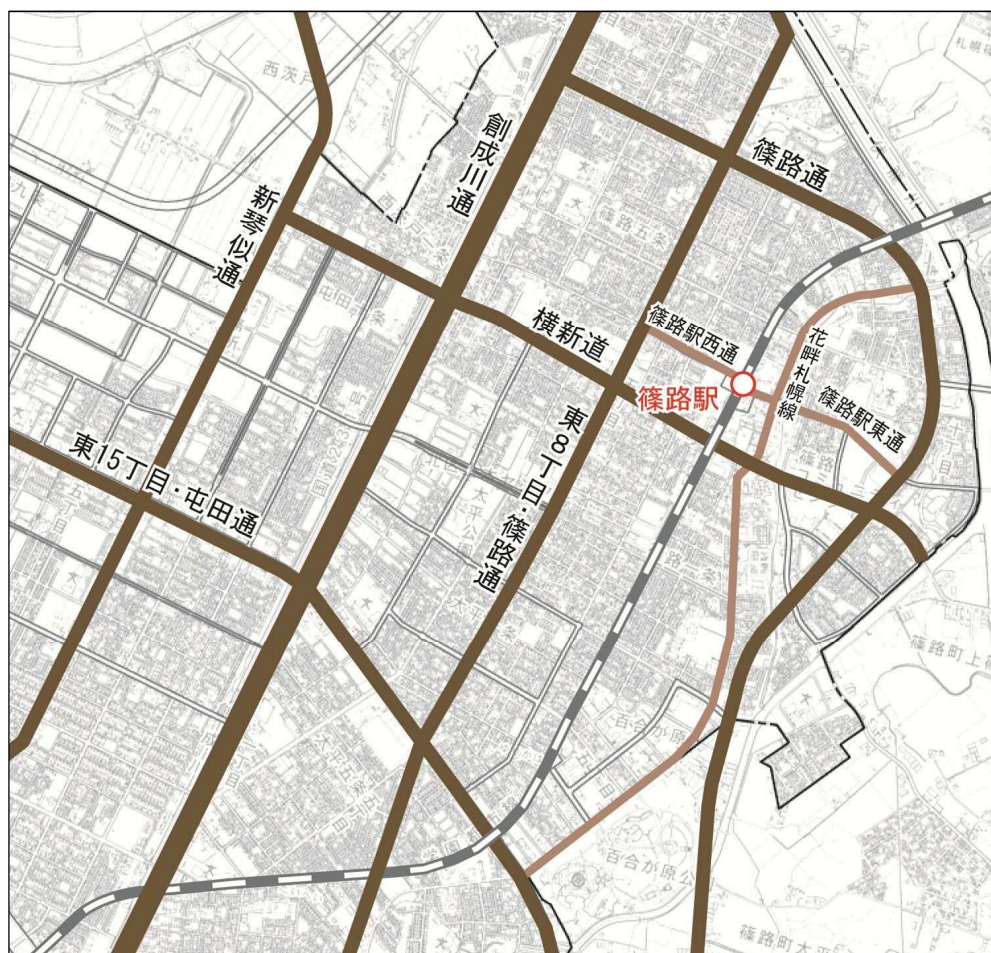
Pink	22	あいの里・篠路線(東8丁目経由)
		札幌ターミナル ⇔ あいの里4条1丁目
	36	篠路駅前団地線(東8丁目経由)
Orange		札幌ターミナル ⇔ 篠路10条4丁目
	麻33	篠路駅前団地線(屯田団地橋経由)
		地下鉄麻生駅 ⇔ 篠路10条4丁目
Light Blue	34	篠路駅前団地線(太平団地経由)
		札幌ターミナル ⇔ 篠路10条4丁目
	麻32	篠路駅前団地線(北49条東3丁目経由)
		地下鉄麻生駅 ⇔ 篠路10条4丁目

Blue	麻25	東16丁目線(地下鉄栄町駅経由)
		地下鉄麻生駅 ⇔ 篠路小学校前
	麻27	篠路線(東8丁目経由)
Light Blue		地下鉄麻生駅 ⇔ 篠路小学校前
	栄20	栄町教育大線(あいの里4条9丁目経由)
		地下鉄麻生駅 ⇔ あいの里4条1丁目
Green	栄23	栄町教育大線(栄20丁目経由)
		地下鉄栄町駅 ⇔ あいの里4条1丁目
	35	篠路駅前団地線(北五番橋経由)
Dark Orange		札幌ターミナル ⇔ 篠路10条4丁目
	栄21	栄町篠路線
		地下鉄栄町駅 ⇔ 篠路10条4丁目

➤ 主要道路の現況

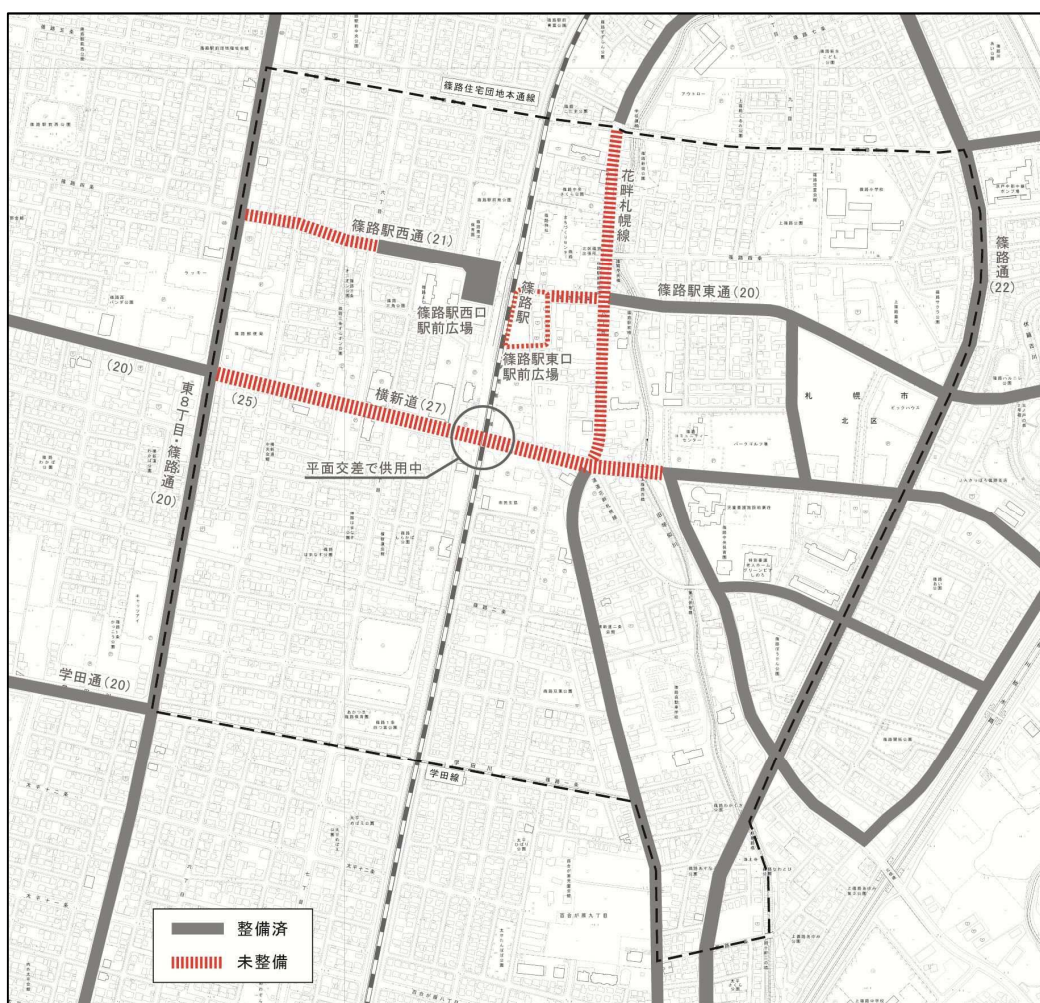
▷ 道路の配置と役割

- ・ 地域交流拠点に位置付けられる篠路駅周辺地区は、主要幹線道路である創成川通を軸として、南北方向に新琴似通、東8丁目・篠路通、篠路通が、東西方向に篠路通、横新道、東15丁目・屯田通が概ね1kmメッシュで配置されており、道路網の骨格を形成している。
- ・ 地域の中心である篠路駅周辺で発生する交通を幹線道路に導く役割を東西駅前通および花畔札幌線などが担っている。



▷ 整備状況

- ・ 篠路駅西口側では、市街地再開発事業と合わせ、篠路駅西口駅前広場が整備され、篠路駅西通の一部も整備済みとなっている。
- ・ 篠路駅東口側では、篠路駅東通は花畔札幌線以東が整備されているが、駅までの区間は未整備であり、篠路駅東口駅前広場も未整備となっている。
- ・ 横新道は、鉄道交差部の平面交差部を含む区間が未整備となっている。
- ・ 花畔札幌線は篠路駅東側の主要な道路にも関わらず、未整備となっている。



➤ 新・札幌市バリアフリー基本構想

- ・ 篠路駅周辺は「新・札幌市バリアフリー基本構想（H21.3）」において重点整備地区として位置付けられており、下図に示すとおり「横新道」や「花畔札幌線」、「篠路駅東通」は、生活関連経路に指定されている。
- ・ 道路整備の際は、地区内の旅客施設や公共施設、福祉施設等をネットワークする道路の歩道バリアフリー化を進め、その地区を利用する人が安全で快適に目的地まで到達できるよう連続した歩行者ネットワークを形成することが必要である。



➤ 公園・緑地の整備状況

- ・ 当地区には、近隣公園が1カ所、街区公園が15カ所、都市緑地が1カ所、整備・供用されている。

